

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-90
研究課題名	ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染患者における腎臓病に関する観察研究
研究期間	西暦 2013年 05月（倫理委員会承認後）～ 2017年 3月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（検査結果、治療内容の診療情報） 上記材料の採取期間 治療開始時～西暦 2013年 04月以前
意義：	<p>ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症は治療薬が進歩し、患者さんの死亡率は大きく低下し、いまは慢性の病気という考え方で長期の治療が必要となっております。しかし、HIVが蛋白尿を引き起こしたり、腎機能低下をきたしたり、治療に使用する薬剤でも腎機能低下を認めることがあります。HIV感染患者様の中で、腎機能低下が長期化・慢性化する方が現在、日本中で増加傾向にあることが知られており、中には血液透析を必要とする程重い腎不全をきたす患者様もおられます。また、腎臓の障害がそれほど重くならない場合でも治療に影響が出ることもあります。このことはHIV感染治療の分野だけでなく、腎臓病の分野からも重要な問題です。</p> <p>なぜなら、慢性腎臓病は、わが国に約1200万人いると推定されており、HIVの治療を受ける患者様の中でも、もともと慢性腎臓病を有する方、腎臓病の危険因子をもつ方々も多くいらっしゃる事が推定されます。東北大学病院はHIV感染治療の専門医、腎臓病の専門医が協力できる拠点病院であり、この研究の意義は、それぞれの専門の力を集約し、HIV感染症患者さんに生じる腎臓病の対策やHIVの治療成績向上の両面に貢献することにあります。</p>
目的：	HIV感染症の専門の診療科と、腎・高血圧・内分泌科が共同して、診断時、治療の前後での腎機能、腎臓を保護する対策がどう行われたのかを検討し、HIV感染症の患者さんが腎臓病をしやすいかどうか、腎臓病が悪化しやすいかどうか、その対策はどうすればよいかを明らかにすることがこの研究の目的です。
方法	<p>該当する患者様は治療開始時～2013年4月に、東北大学病院において、ヒト免疫不全ウイルス感染関連の治療を受けた20歳以上の方です。これらの方々の、年齢、性別、生活習慣病や慢性腎臓病の有無、喫煙習慣、臨床検査結果、治療法を診療の記録から抽出します。この方法は後向き観察研究という方法で、新たに患者様への負担はかかりません。匿名化といって個人名を消去し、代わりに番号などを付与する処理を行うことで、誰のデータであるかわからないようにして、統計解析をおこないます。その結果は、感染症や腎臓病に関する学会や医学雑誌に公表されることがあります。</p> <p>研究に組み入れられることを希望されない方は担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計処理は致しません。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院 980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 (実施責任医師) 宮崎真理子 (腎高血圧内分泌科/血液浄化療法部) 電話：022-717-7392、Fax 022-717-7486 e-mail: mamiyaza@med.tohoku.ac.jp (研究分担医師) 芦野 有悟 (東北大学病院 総合感染症科) 022-717-7766 (個人情報管理者) 柳澤紀子 (東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科) 電話：022-717-7163